天　地　悠　々

門脇　　隆
(昭和40年土木科卒)

第21回千葉県私学友好訪中団は平成11年(1999年)7月23日(金)～8月4日(木)までの13日間、千葉県各私立高校から選抜された16名で中華人民共和国を視察(北京・西安・漢中・成都・昆明・上海)する事になり私は訪中団副団長として参加した。

午前11:30成田空港第2ターミナルに集合。VIPルームにて出発式後、定刻にMU524便にて中国に向け離陸、北京空港に着き、熱烈歓迎の大きな垂れ幕が出ていたが、着いた途端に何と！太陽光線42度の熱烈歓迎の暑さに参ってしまった。更にクーラがきいていない空港内の混雑は正常な状態ではなく中年の中国人女性同士の殴り合いの喧嘩に遭遇しショックを受けたのである。頬から流れる血を正視する事が出来なかった。原因は割り込みとの事で、これは大変な国に来てしまったと思った。

北京(ベイジンと呼ぶ)の歴史は非常に古く北京原人の化石は60万年前に人類が住んでいた事が発見されている。中都(1115年～1234年)、大都(1271年～1378年)、北平(1378年～1644年)と名称が変更し、1949年10月1日より中華人民共和国の首都となり現在に至る。1999年10月1日(金)は50周年大記念式典を開催し世界各国の首脳を招待する為に急ピッチで道路・建物が整備されていた。(写真1)は民主化運動の暴動があった天安門事件で知られており、城壁に「中華人民共和国万歳」「世界人民団結万歳」の二大スローガンが左右に掲げられていた。100万人の大集会と国家的行事の全てがここで開催され、25万平方メートルの広さもあり驚きであった。またここでの男女のトイレは両サイドの側溝を開け、用を足すとの事。万里の長城は世界最大級の建造物で全長6,000kmの大城壁で高さ6.6m、幅は底部が6.55m、上部が5.5mで馬6頭を並べて走る事が出来るとの事。私達は最も有名で訪れやすい八達嶺長城(バーダーリン・チャァンチャェンと呼ぶ)の女坂を北八楼までの距離を往復したがその雄大さには感激もひとしおであった。毛主席の詩の中に「長城に至らざるは好漢(おとこ)にあらず」と秋工高校の時、教えていただき、いつか必ず万里の長城で倒立(写真2)したい夢を実現する事が出来た。帰りの途中で北京大学体育館にてアテネオリンピック大会(2004年)の強化合宿(写真3)が行われている事が分り立ち寄る。

1. 天安門広場

2. 万里の長城で倒立

3. 強化合宿

ガイドの朱さんの通訳で月1回の7日間、男子36名・女子24名が、午前午後2回に分けて練習との事。男女共に素晴らしい選手がいて日本との良きライバルと思いました。故宮「紫禁城」(写真4)は明の永楽帝が15年の歳月を費やして完成させ、以後清の時代より24人の皇帝が住居として使用する。面積は72万平方メートル、城内の60の殿閣、9999の部屋数、約100万点の財宝が展示されている。午後7時から100年以上の歴史を誇る中国でも最も有名な北京ダック料理店「全聚徳」にて夕食、暑さに負けず打ち解けた穏やかな雰囲気であった。
《宿泊先は京倫飯店》

4. 紫禁城

西安(シーアンと呼ぶ)はその昔、長安と呼ばれた有名なシルクロードの起点となり西アジア、ヨーロッパとの交流の中心地で南北8.4km、東西9.7kmの正方形に近い城跡の中に碁盤の目のように道路が走っていました。秦始皇帝陵はかつて周囲6.2km、高さ80mの規模の丘になっていて、周りには何百という武士立傭(人形)と陶馬が出土していて現在も発掘中で博物館(兵馬傭抗)となっていた。兵馬傭見学中に訪中団の中で体が大きい別名、ジャイアン先生のリュックから10万円の現金が盗まれてしまい(傍に3人組がグルになっていたとの事)、旅行者に対する治安の悪さを感じた(警察に届けたが梨の礫であった)。味の濃い料理の昼食後、三蔵法師がインド(天竺)より持ち帰った経典を収める為に建立された「大雁塔」(写真5)を見学。7層からなる塔の螺旋階段を登り、最上階に達すると心地良い風が全身を通り抜けて行った。4日目のこの頃お腹の具合が悪くなる訪中団の人が多数出る。慣れない油の料理、香辛料、42度で高温多湿、クーラが効かず、眠れず、旅の疲れからか？日本から持ってきた、ふりかけ・のり・梅干し・カップラーメンが大いに役立つ。夜7時からレストランにてショーを見ながらの食事。中国古来の楽器の演奏や歌、鮮やかに着飾った踊りに目を奪われる(写真6)。
《宿泊先は唐華飯店》

5. 大雁塔

6. 古来の踊り

漢中(ハンジョンと呼ぶ)は古来軍事上の要地で劉邦が漢王の頃、ここに都を置き三国時代には魏・蜀・漢の抗争の地となった所で付近には水田が多く、米・生糸・薬が主に生産されている。諸葛孔明と馬超の墓があり興味を持って見学する事が出来た。中国の三国志では圧倒的な人気は孔明・関羽(写真7)・曹操・超雲・劉備・張飛の順で、私の好きな人物は義に厚く勇気のある関羽で、敵方の曹操が関羽を捕らえたが人柄に惚れて殺さずに逃がす程である。張飛は酒好きで失敗も多いが人間臭い所がいい。「忘夏軒」で昼食。ここで初めて中国式トイレを体験。話には聞いていたが扉がなくオープンな姿で用を足すのである。凄まじい光景で結局、便が出てこなかった。孔明の発明した木牛流馬碑(写真8)では夕涼みを兼ねて近くの子供と老人達10～15名が我々一行を珍しいと思ったのか、見学に来たので皆で機内から貰ったビスケット・お菓子・飴を配布した所、遠慮しつつも「謝謝」と嬉しそうに持ち帰ってくれた。奥ゆかしくも礼にかなった人達に慎み深さと素朴さを感じたのは私だけではなかったと思う。
《宿泊先は田園賓館》

7. 関羽廟

8. 木牛流馬碑

「兵(つわもの)どもの夢の後」

成都(チェンズゥーと呼ぶ)は漢中駅から早朝4時に、寝台特急列車に乗る。朝食は豪華な料理の中に、心尽くしのお粥が嬉しい！約10時間の車窓からの美しい景観、爽やかな風、楽しい会話で、「いい旅、夢気分」を満悦して1時間遅れで18時頃成都に到着。夕食は本場の四川料理。山椒の香りが鼻をつくが食べてみて辛くは感じない。この程度ならと思っていたら突然口の中が燃え出した。さらに赤褐色の料理が次々と運ばれてくるが、完全にギブアップ。成都の周囲は嘉陵江・民江・蛇江・金紗江の四つの大河が流れていて天然の要塞と成っている。気候は温和で雨量も多く土地が肥え、資源が豊富で恵まれた場所である。都江堰(とこうえん)は古代の大型引水灌漑施設(写真9)で川岸の岩山を切り崩し、その石を竹籠に入れ河に沈めて人造の中州を築き水害を防いだ、中国古代水利技術がいかに優れていたかを伝える物だった。デパートで買い物しレジにて並んでいた時、凄まじい光景を目撃したのである。わずか10分位の間に中国人同士で喧嘩をする人達がいた。何と言う光景なのかと息詰まる思いがした。
《宿泊先は錦江飯店》

9. 引水灌漑施設

昆明(クンミンと呼ぶ)は年中春のように暖かく、四季を通じて花が咲く所から「春城」「花の町」とも呼ばれている。「人と自然—21世紀に向けて」をテーマに3年の歳月と30億元をかけて「世界園芸博覧会(花博)」開催(写真10)のため飛行場・道路・全ての建物が新しく国際化が進んでいた。

10. 昆明の花博で

「昆明に至りて、西山に至らざれば、未だ昆明に非ず、西山に至りて竜門に登ざれば、未だ西山に非ず」と言われるように三位一体の景観でした。

石林(写真11)は天下第一の奇景とたたえられ、約3億年前は海底で地殻変動により隆起し風雨や地下水の浸食作用により、現在のような地形となっていて水成岩が永年にわたり溶食・風化して出来たのが石の林となった。小径・石橋・亭・石台が迷宮のように入り組んでいて、風の音・水の音・鳥のさえずりがこだまし静寂な趣を添えていた。中国少数民族(サニ族)の踊りを見学、色とりどりの衣装と音楽で「シャシャシャイ・シャシャシャイ♪♪(土崎港祭り曳山のリズムに少し似ていた)」のリズムの音がいつまでも耳に残っていた。万歩計は1万8千歩、疲れはあるが充実した1日であった。
《宿泊先は金龍飯店》

11. 石林

上海(シャンハイと呼ぶ)は人口1,500万人で中国経済をリードする最大の工業・商業・湾岸都市として活気にあふれている。東洋一の東方明珠テレビ塔(写真12)、ヨーロッパ風建築物の建ち並びを左右に目をやりながら散策し、毛主席が「偉大な文学家・思想家・革命家」として賛えた魯迅の墓碑にて全員の記念写真を撮る。13日間旅をして気が付いた点は、老若男女を問わず公園・道路脇で太極拳・トランプ・碁・麻雀を楽しんでいた。車が自転車の流れをかき分けて行くのに騒がしくクラクションを鳴らして走行しているのが当たり前である。更に大人から子供まで「シィエン・シィエン(千円・千円)」と物売りのしつこさには閉口したが生活への逞しさがあった。レストランでの食事後必ずと言っていいほど土産物の販売が始まり、アルコールが入っている事も有り、騙されついつい買ってしまう。Sさんは北京にて著名な人物の掛け軸と言われ飲んだ勢いで80万円を値切って30万円で買ってしまう。上海で同じ掛け軸が1万円で売っていたのである。ショックが大きいSさん！漢方薬の研究所？で白衣のお爺さんより一箱1万円だがここで買うと半額の5,000円でいいよと言われ10箱買ってしまう3名の訪中団。「飲んだら買うな！買うなら飲むな！」の諺。2カ月後に幕張プリンスホテルで反省会が有り購入者に聞いた所、この漢方薬を飲むと下痢と痒みが出て全部捨てたとの事。飲み物は常にミネラルウオーターだがホテルによっては10元～30元(1元約15円)は高すぎ。水は沸騰させてから飲む事。ぬるいビールと欠けた皿・欠けたコップは必ず出て来た。これが大陸的な考え方(細かいことを言わない?)　と思った。日本人にとっては中国料理の味は濃く、淡白で辛く大味とおおざっぱで隠し味も無い料理方法であった。
《宿泊先は日航飯店》

12. 東方明珠テレビ塔

※終わりに

天地悠々とは、天長地久(てんちょうちきゅう)と言って天と地は永遠に尽きることが無い事。また悠々閑閑(ゆうゆうかんかん)はゆったりして急がない事。こうした四文字熟語の意味を合成して、永遠の自然と共生して、急がず落ち着いて生きる願望が込められている。この頃は、考え方や経済・教育・生活様式など全てが30年前にタイムスリップした感が有り、これからの国際社会の中で深く考えなければならないと思ったが、第29回北京オリンピック大会以後、習近平(シ-ジンピン)主席となり、一帯一路を掲げ世界人口の五分の一、14億人が資源豊かでエネルギッシュな人々が経済力を身につけ、現在世界経済第2位となっている。それに比べて日本は知恵のある国民・品格のある国民・おもてなしの心・豊かな人間を育てる教育や社会が重要と考える(知・徳・体のバランスの取れた教育を追求・実践しうる事だと確信している)。世界から魅力のある国民作りをして行く必要性があるだろうと思った。訪中が決まり横山光輝著「三国志」60巻・「史記」15巻を読み、会話と習慣などの勉強をしたが、結局多くを使用した言葉は你好(ニイハオ)・謝謝(シェシェ)・不要(ブーヤオ)と手書き(手紙はトイレットペーパーの意味)の漢字と英会話で何とか通じる思い出深い研修旅行でした。

追記)　2020年に入り東京オリンピックの年になりましたが、武漢(ウーハンと呼ぶ)から蝙蝠(コウモリ)と人間との接触から新型コロナウィルス(COVID-19)が発生したとされているが、この地は高温多湿な場所で都市と地方の経済格差があり、地方は貧しく不潔との事を市原中央高校卒業生の教え子、松尾君が仕事で武漢に住んでいて帰国した際、自宅に遊びに来てお酒を飲みながら話を聞かせてくれました。武漢から2019年12月23日(月)に突如10名の感染者が出て、1ヶ月後には2,000名(死亡者360名)となり、2020年5月では全世界にも拡大し、感染者数は550万人、死亡者数は35万人となっている。「アメリカ165万人、死亡者10万人。日本は1.7万人、死亡者800人」(5月25日現在)と経済界、教育界、スポーツ界に大打撃を与えている。東京オリンピックも1年後の2021年7月開催となり、2020年10月までにコロナの終焉が無ければ、オリンピック開催も危ぶまれている状況である。今後はウィルスと共生する社会を確立し、コロナを治す薬を開発・発見する事が急務である。3密「習(みっしゅう)近(みっちゃく)平(みっぺい)」を守り(中国では国内で早期に押さえ込めずに対応が良くない！)、クラスター (Cluster) <集団>にならないように、人との間隔を開けるソーシャルディスタンス(Social Distance) の行動が重要である。